

# (公開学習Ⅰ) 第2学年1組 生活科学学習指導案

授業者 谷田 順子  
2年1組教室

## 1 単元名 わくわく大学たんけん

## 2 授業構成

### (1) 教材に対する反省と新しい提案

本単元は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

- |   |
|---|
| <p>(3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。</p> <p>(4) 公共物や公共施設を利用し、身のまわりにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。</p> |
|---|

本校は、隣接する鳥取大学の探検を毎年行ってきている。1年生で行った学校探検の発展でもあり、3年生から始まる地域学習の導入期の単元でもある。本校の児童と鳥取大学とのかかわりは、年に3回教育実習があり、実習生と一緒に学習をしている。また、毎日大学の構内を通過して通学する児童もおり、何らかの形で全児童がかかわっているといえる。しかし、それ以上の広がりやかかわりが薄いのが、現状である。探検活動は、子どもたちにとって大好きな活動であるとともに、未知の対象に出合う楽しさや好奇心、もっと～したいという意欲が高まる活動でもある。大学探検をすることで、鳥取大学と自分とのかかわりがもっと身近で親しみのもてるものになり、鳥取大学についての関心が広がっていくと考える。本来ならば、児童の自発的な活動を誘発し展開していきたいところだが、大学の都合や時間の制限などにより探検の内容を設定して進めてきた部分が多い。受動的な活動ではなく、もっと児童の見通しを持った主体的な活動を展開し、明確な目的意識を持った探検を繰り返せられないものかと考えた。自分たちの、「もっと～したい」という気持ちは、知的好奇心の高まりや知的な気づきの深まりにつながり、それらに一層親しみをもてるものである。また、この自分からやりたいと思う内発的な意欲は、これから学習をしていく上で自発的な学びの基礎となっていくものであると考える。探検をする活動そのものを楽しむだけでなく、それまでの「～してみたい」という気持ちや準備、計画の段階から思考力や表現力、判断力を養い、伝え合うことを通して、気づきをさらに深めることができると考えた。

### (2) 子どもの学びの実態・期待する学び方

前期、大学探検へ出かける前、鳥取大学に関してどのようなことを知っているか「ひと、もの、しぜん」に分け、児童にアンケートを行った。ほとんどの児童が、教育実習でお世話になった大学生の名前をあげており、「ひと」の分野が多い傾向にあった。また、個人差も大きく、一番多い児童の項目数が25なのに対し、知っていることが「全くない」と答えた児童は1名いた。その後、2回大学探検へ出かけた。1回目は5月にお世話になった実習生が鳥取大学のどんなところで勉強をしているのか知りたいという思いをもって大学へ行き、案内してもらった。2回目は、サツマイモの苗植えでお世話になった農学部の中田先生の畑が鳥取大学のどこにあるのか知りたくなりサイエンスセンターにでかけた。鳥取大学の構内を初めて歩く児童も多く、この2回の大学探検では「ひと、もの、しぜん」に分けて見つけたものをメモしながら探検を

行った。それぞれの児童がたくさん見つけ、量的な気づきが増えていた。その半面、質的な気づきは1, 2回の探検では高まりにくいと感じる。探検前のアンケートに書いていることを、探検後のふり返しカードにさらに詳しく書いている児童は、39人中7人であった。これからの探検が、児童にとって質的な気づきを増やしていくものとなるようにしていく必要がある。そのためにも、まず大学について「もっと～したい」という児童の思いを大切に、それを実現するためにはどうしたらよいか自分たちで考えさせながら見通しをもたせ、次の活動へとつなげていきたい。そして、探検で出会う人々とのかかわりや活動の中から、いろいろな気づきや考えを深めていくことができるような子どもたちの学びを期待したいと考える。このような児童の主体的な活動を通して、大学の人々や場所のよさに気づくとともに、それらを大切に作る気持ちや積極的にかかわろうとする気持ちを一層強くもてるようにしたい。

### (3) 本時の学習に向けた教材研究

児童が対象とのかかわりを深め、そこで生まれた気づきを質的に高めて、活動や体験を一層充実させ、日常にもつなげていくことができるような生活科における学習展開を次のように設定した。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
生活科の学習展開	対象との出会い	気づきの自覚	思いや願いをもつ	見通しをもつ	活動する	振り返る 伝え合う	活用する

本時は、③思いや願いをもつ ④見通しを持つについて深める内容となる。③思いや願いを持つ段階では、「また大学探検に行きたい」という児童の声から、自分はもう一度鳥取大学のどこへ行って、どんなことが知りたいのか、大学の人たちとどんなことがしたいのかを考えた。絵を使って自分の知りたいこと、したいことを発表し板書することで、視覚的にもわかりやすく提示することができると思う。そして、本時は個々の願いをさらにグループの願いにしていくために話し合いをする。行きたい場所が同じグループの児童でも知りたいこと、したいと思っていることは様々であり、限られた時間でどんなことができそうなのか考えさせたい。これはできないと否定するのではなく、前向きな話し合いになるようにどうすればできるのか、どんなことならできるかをみんなでアイデアを出し合い、考えさせたい。また自己中心的な考えではなく、大学の人ともっと仲良くなるためにはどんなかかわりがよいか、役に立てそうなことはないかなど相手のことも考えた上での話し合いとなるようにしたい。

④見通しをもつ段階では、グループで話し合ったことを実現するためにはこれからどうしたらよいか、見通しを持たせ考えさせたい。今まではこの部分を教師が大学と連絡を取り、進めていったところがあるが、実際に大学にお願いする必要があることに気づかせたい。児童自ら手紙を書くなど、次への活動を繰り返し広げていきたい。このような展開で自分が主体的にかかわって、見つけたり体験したりして得た気づきは、気づきの質を高めることにつながると思われる。

### 3 単元の見直し

- ・ 大学の人々や施設、自然などに関心を持ち、人とかかわる楽しさを味わいながら、親しみをもつことができる。 [関心・意欲・態度]
- ・ 大学でかかわった人々や施設、自然について学んだことや感じたこと、気づいたことなどを多様な方法で表現し、伝えることができる。 [思考・表現]

- ・大学にはたくさんの人々や施設，自然があることやそれらとかかわることの楽しさ，よさに気づくことができる。 [気づき]

#### 4 学習計画 全15時間

第1次 鳥とり大学ってどんなところ？（5）

- ・じっしゅうの先生たちにあいはいこう②
- ・中田先生にあいはいこう②
- ・見つけたことを話し合おう①

第2次 もっと大学のことをしりたいな（6）

- ・自分はどんなことが知りたいか考えよう①
- ・たんけんの計画を立てよう③(本時1 / 3)
- ・グループごとに大学たんけんにいこう②

第3次 「大はっけん」を伝え合おう（4）

- ・はっけんしたことをまとめよう③
- ・たんけんほうこくかい①

#### 5 本時の学習について

##### (1) 本時目標

大学探検で自分が知りたいことやしてみたいことを紹介し，グループで協力をして大学探検の計画を立てることができる。

##### (2) 期待される児童の様相

- A みんなの意見を聞き，相手のことを考えながらアイデアを出し，積極的に話し合えることができる。
- B みんなの意見を聞き，どんなことを聞いたりしたりできそうか考え，話し合えることができる。
- C みんなの意見を聞き，自分が大学探検でしてみたいことを話すことができる。

##### (3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援)

学習活動	教師の意図と支援
1 大学のどこへ行って，何が知りたいのか，したいのかを発表する。	○前時を振り返り，自分はどこへ行って何がしたいのか一人ずつ発表させる。途中，理由を聞いたり，具体的に説明させたりすることで，イメージを広げ，期待感を持たせたい。 ◇絵を描いたカードを使って発表させ，視覚的にもわかりやすく提示していく。
大学たんけんへ行く計画を立てよう	
2 グループに分かれて，何をするか話し合う。	○発表したことをもとに，知りたいことやどんなことができそうか話し合わせる。探検の時間には限りがあることを伝え，限られた時間の中で，大学の人ともっとなかよくなれたり，大学のことがもっとよく分かったりできるような内容に

	<p>なるように話し合わせる。</p> <p>◇どんなことが聞いてみたいのか、また役に立てそうなことはないかなど、具体的に考えられるような声かけをしていく。</p> <p>◇これはできないと決めつけているグループには、どうしたらできそうか考えさせたい。</p> <p>◆なかなか自分の考えが言えない児童には、みんなの考えを聞いて、自分はどう思うのか考えを話すように言葉かけをする。</p>
<p>3 グループで話し合ったことを発表する。</p>	<p>○他のグループがどんなことをしようと思っているのか、みんなで聞き合い、共通理解を図る。</p> <p>◇それぞれの班の発表を聞き、よい点を話し、これからの期待感を膨らませたい。</p> <p>◆改善点がある班に対しては、再度考える視点を与え、これからにつなげていきたい。</p>
<p>4 本時のまとめをするとともに、次時の見通しを持つ。</p>	<p>○すぐに大学探検に行けるかどうかを児童に問い、大学の人に聞いてみる必要があることに気づかせたい。</p> <p>◇次時は、自分たちの考えた内容を大学の人に伝えるための手紙を書くことを知らせ、これからの活動の見通しを持たせたい。</p>